

パノラミス錠

(スピノサド+ミルベマイシノンオキシム)



月1錠で3タイプ 6つの寄生虫対策が可能な
ブロードスペクトラムの犬用経口駆除剤

あけ方 円のふちに沿ってハサミでお切りください。

錠剤のシートはお子様の誤食を防ぐために、開けにくい構造になっています。

与え方 砕いた錠剤を少量のフードに混ぜて与えることもできます。
最大の効果を得るため、少量のフードと一緒に与えてください。

パノラミス錠についてのお問い合わせ
☎ 0120-417-317 (月~金 9:00~12:00 13:00~17:00)

Elanco™、パノラミス®:イーライリリー社、その子会社又は関連会社が保有又はライセンスを行う商標又は登録商標です。

消化管内寄生虫 駆除
ノミ・マダニ 駆除
犬糸状虫症の予防

要指示医薬品 動物用医薬品

パノラミス錠

(スピノサド+ミルベマイシノンオキシム)

犬: 犬糸状虫症の予防、ノミ及びマダニの駆除、犬回虫・犬鉤虫及び犬鞭虫の駆除
注意—獣医師等の処方せん・指示により使用すること。

パノラミス錠 S/M/L/LL/XL

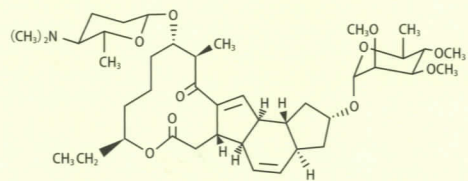


パノラミス®錠は「スピノサド」と「ミルベマイシンオキシム」2剤を配合したブロードスペクトラムの犬用経口駆除剤です。

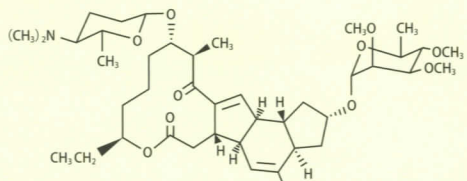
■ スピノサドについて

スピノサドは、放線菌 *Saccharopolyspora spinosa* の発酵により得られる化合物で、マクロライド系化合物に分類されます。

スピノシンA



スピノシンD



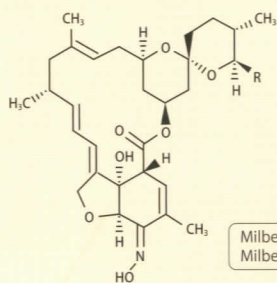
分子式: スピノシンA: C₃₁H₄₅NO₁₃
スピノシンD: C₃₂H₄₇NO₁₃

スピノサドは、構造の類似したいくつかのファクターの混合物で、主要なファクターとしてスピノシンAとスピノシンDがあります。スピノサドは、スピノシンAを約85%及び、スピノシンDを約15%の比率で含有しています。スピノサドは、米国イーライリリー(株)によって開発され、米国*において2007年11月に、日本で2010年に犬用の経口ノミ・マダニ駆除剤「コンフォティス®錠」として発表され、高い効果と経口投与による利便性により獣医師・飼い主様に高く評価されています。

*米国「コンフォティス®錠」はノミの効能のみ。

■ ミルベマイシンオキシムについて

ミルベマイシンは、放線菌 *Streptomyces hygroscopicus subsp aureolacrimosus* の発酵により得られる化合物で、マクロライド系化合物に分類されます。



Milbemycin A3 oxime R=CH₃
Milbemycin A4 oxime R=CH₂CH₃

ミルベマイシンオキシムは、ミルベマイシンA3オキシムとミルベマイシンA4オキシムの混合物で、両成分の比率は、ミルベマイシンA3オキシムが20%以下、ミルベマイシンA4オキシムが80%以上となっています。ミルベマイシンオキシムには犬糸状虫幼虫殺滅効果・体内移行中の犬糸状虫幼虫の殺滅による成虫寄生予防効果を示すことが知られています。

● パノラミス®錠投与による環境への影響

スピノサドとミルベマイシンオキシムの合剤であるパノラミス®錠の環境影響についての評価が行われ、その影響は最小限であることが示されています。

パノラミス®錠の特長

● ブロードスペクトラムの犬用経口駆除剤

月1錠で、3タイプ6つの寄生虫対策が可能のため飼い主様の毎月の投薬負担が減らせます。

3

3タイプ、6つの
寄生虫対策に



外部寄生虫駆除



ノミ マダニ



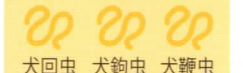
犬糸状虫症の
予防



犬糸状虫症



消化管内寄生虫
駆除



犬回虫 犬鉤虫 犬鞭虫

2

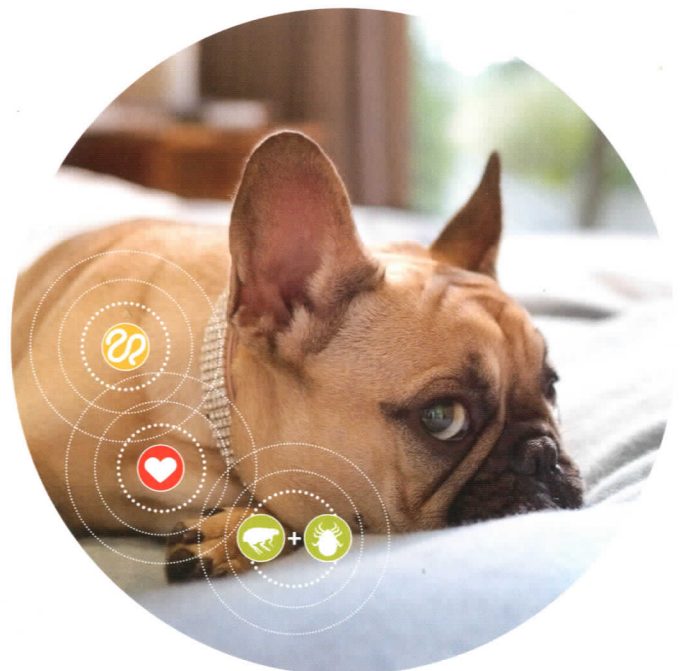
2つの有効成分
配合の

スピノサド

ミルベマイシンオキシム

1

この1錠



● 月に1回投与の経口剤

錠剤なので投与後のベタつきもなく、シャンプーへの影響もありません。

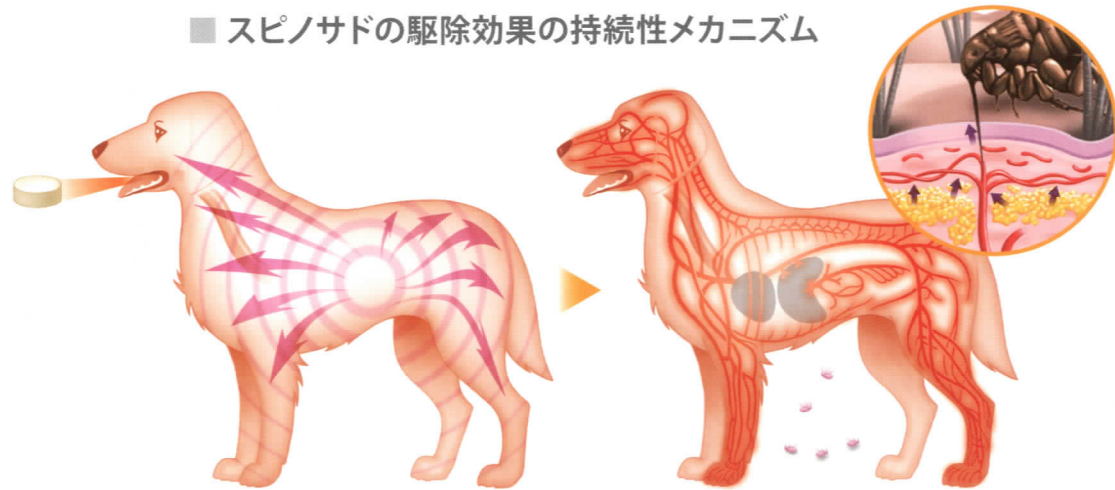
● 高い有効性と安全性

有効性試験、国内臨床試験において、各種寄生虫に対する優れた有効性と犬に対する高い安全性が確認されています。

●吸収・分布

スピノサドは、経口投与後腸管より速やかに吸収され、血流にのり全身にいきわたるだけでなく、皮下等の脂肪組織に分布して蓄積されます。脂肪組織に蓄積されたスピノサドは、約1ヵ月間にわたり血液中に継続的に放出され、再び血流にのり全身にいきわたります。これにより、スピノサドの血液中濃度は約1ヵ月間にわたり駆除効果のある濃度に維持されます。ノミ・マダニは吸血すると同時にスピノサドを取り込み、駆除されます。

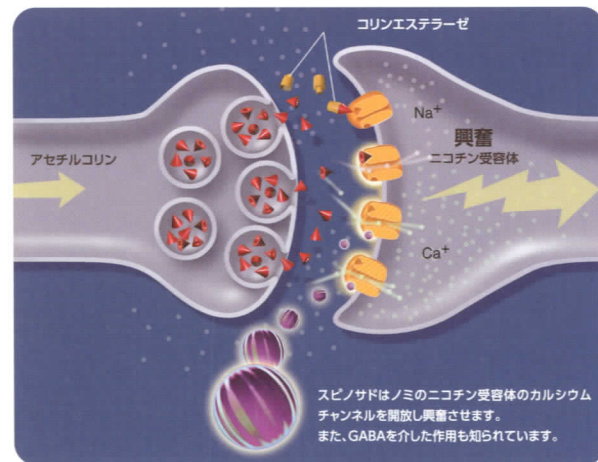
■スピノサドの駆除効果の持続性メカニズム



●スピノサドの作用機序

スピノサドの主要な作用機序は、昆虫におけるニコチン性アセチルコリン受容体の活性化です。節足動物の神経系の広範な興奮、麻痺により、ノミ、マダニは麻痺及び死亡に至ります。さらに、スピノサドは昆虫のGABA受容体にも作用することが示唆されています。

■ノミの神経受容体におけるスピノサドの作用機序 (イメージ図)

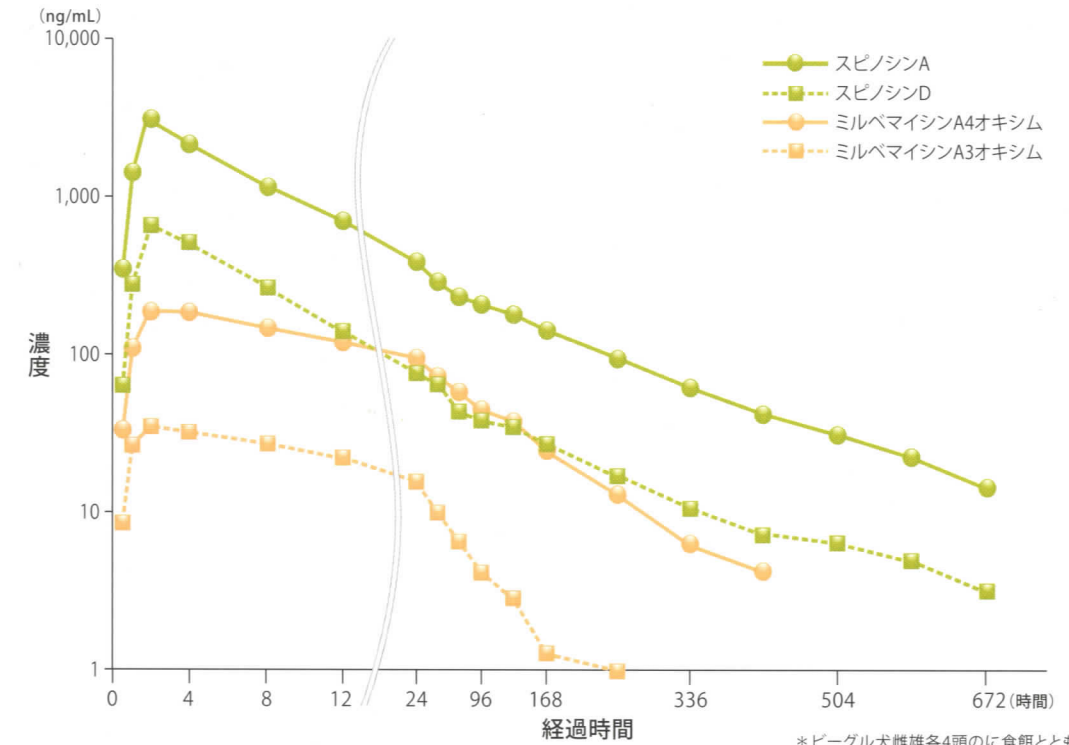


●ミルベマイシンオキシムの作用機序

ミルベマイシンオキシムは、無脊椎動物神経および筋細胞内のグルタミン酸ゲート塩素イオンチャンネルに結合することにより作用します。塩素イオンに対する細胞膜の透過性が増すことにより、影響を受けた細胞で過分極が引き起こされ、寄生虫は麻痺および死亡に至ります。また、GABAの伝達を混乱させることにより作用する可能性もあります。

●パノラミス®錠の薬物動態

■犬にスピノサド30mg/kg・ミルベマイシンオキシム0.5mg/kgの配合剤を単回経口投与した際の平均血中濃度推移



■犬にスピノサド30mg/kg・ミルベマイシンオキシム0.5mg/kgの配合剤を単回経口投与した際の薬物動態

	C _{max} (ng/mL)	T _{max} (h)	T _{1/2} (h)	生物学的利用率 (%)
スピノシンA	3,143	3.0	152	95.8
スピノシンD	607	3.1	161	92.2
ミルベマイシンA3オキシム	44.7	2.9	35.9	>100
ミルベマイシンA4オキシム	248	3.0	80.3	>100

* ビーグル犬雌雄各4頭のに食餌とともに経口投与

■血漿タンパク結合率: 95%以上

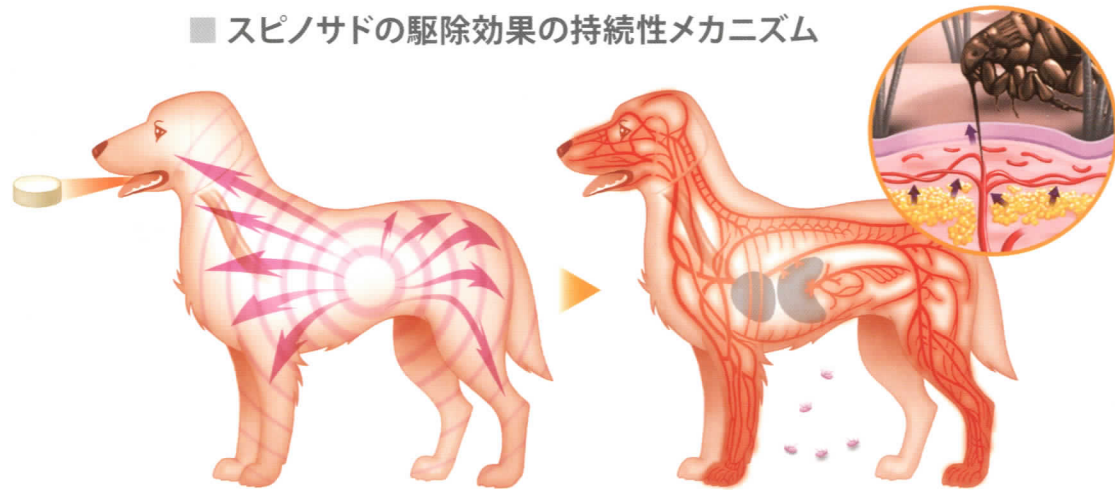
■代謝・排泄: スピノサドとミルベマイシンオキシムは主に肝臓により代謝され、主に糞便中に排泄される。

* スピノサド: ビーグル犬 雌4頭、雄6頭 [14C]スピノサド 約30mg/kgを、単回経口投与
 * ミルベマイシンオキシム: ビーグル犬 雌雄各3頭 スピノサド 60mgと[14C]ミルベマイシンオキシムを単回経口投与
 * 投与21日目までに採取した試料の放射活性量を測定

●吸収・分布

スピノサドは、経口投与後腸管より速やかに吸収され、血流にのり全身にいきわたるだけでなく、皮下等の脂肪組織に分布して蓄積されます。脂肪組織に蓄積されたスピノサドは、約1ヵ月間にわたり血液中に継続的に放出され、再び血流にのり全身にいきわたります。これにより、スピノサドの血液中濃度は約1ヵ月間にわたり駆除効果のある濃度に維持されます。ノミ・マダニは吸血すると同時にスピノサドを取り込み、駆除されます。

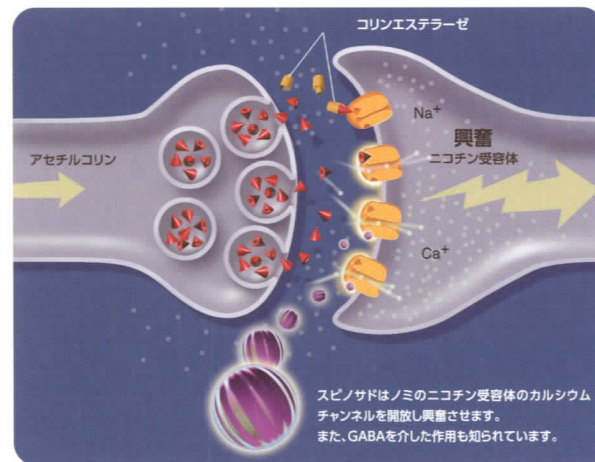
■スピノサドの駆除効果の持続性メカニズム



●スピノサドの作用機序

スピノサドの主要な作用機序は、昆虫におけるニコチン性アセチルコリン受容体の活性化です。節足動物の神経系の広範な興奮、麻痺により、ノミ、マダニは麻痺及び死亡に至ります。さらに、スピノサドは昆虫のGABA受容体にも作用することが示唆されています。

■ノミの神経受容体におけるスピノサドの作用機序 (イメージ図)

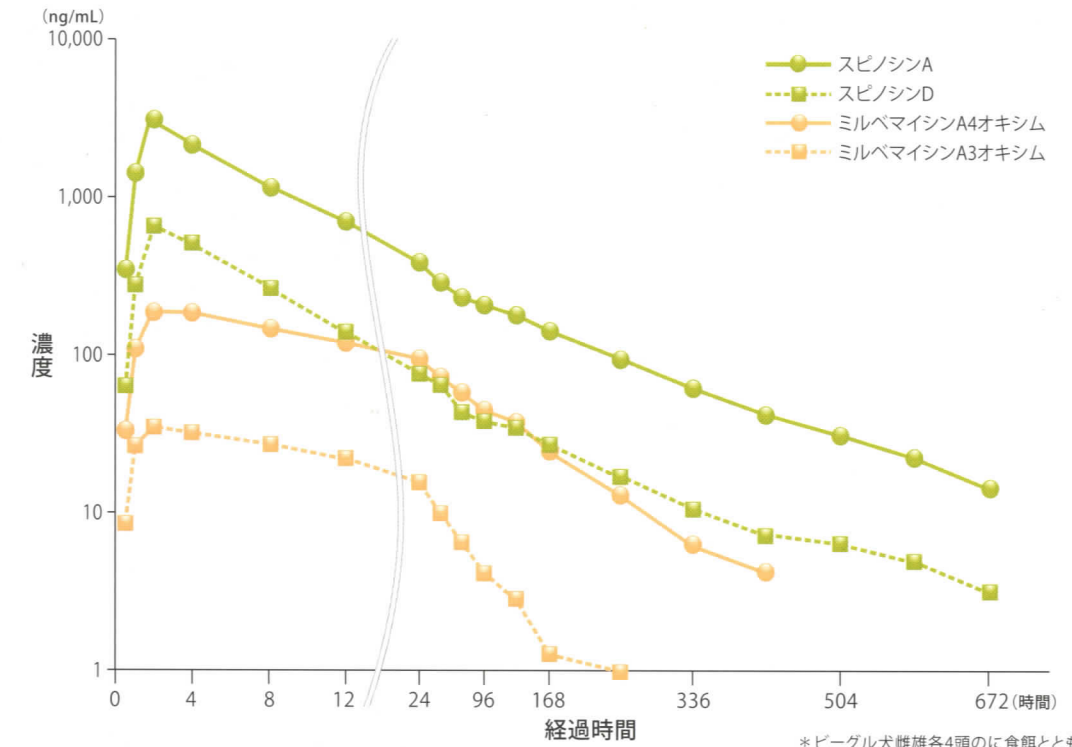


●ミルベマイシンオキシムの作用機序

ミルベマイシンオキシムは、無脊椎動物神経および筋細胞内のグルタミン酸ゲート塩素イオンチャンネルに結合することにより作用します。塩素イオンに対する細胞膜の透過性が増すことにより、影響を受けた細胞で過分極が引き起こされ、寄生虫は麻痺および死亡に至ります。また、GABAの伝達を混乱させることにより作用する可能性もあります。

●パノラミス®錠の薬物動態

■犬にスピノサド30mg/kg・ミルベマイシンオキシム0.5mg/kgの配合剤を単回経口投与した際の平均血中濃度推移



* ビーグル犬雌雄各4頭のに食餌とともに経口投与

■犬にスピノサド30mg/kg・ミルベマイシンオキシム0.5mg/kgの配合剤を単回経口投与した際の薬物動態

成分	C _{max} (ng/mL)	T _{max} (h)	T _{1/2} (h)	生物学的利用率 (%)
スピノシンA	3,143	3.0	152	95.8
スピノシンD	607	3.1	161	92.2
ミルベマイシンA3オキシム	44.7	2.9	35.9	>100
ミルベマイシンA4オキシム	248	3.0	80.3	>100

* ビーグル犬雌雄各4頭のに食餌とともに経口投与

■血漿タンパク結合率: 95%以上

■代謝・排泄: スピノサドとミルベマイシンオキシムは主に肝臓により代謝され、主に糞便中に排泄される。

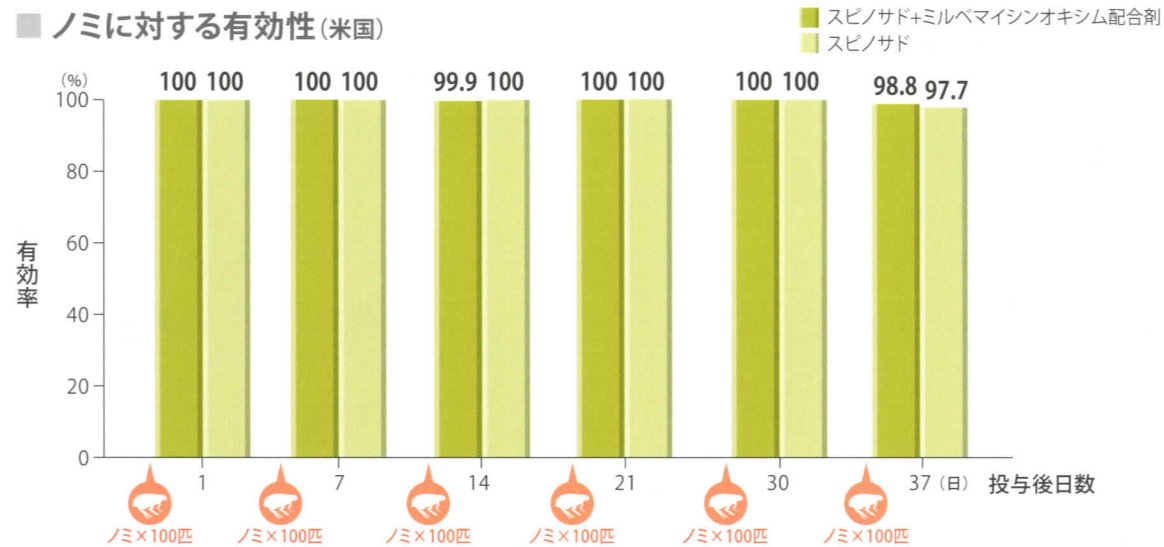
* スピノサド: ビーグル犬 雌4頭、雄6頭 [14C]スピノサド 約30mg/kgを、単回経口投与
* ミルベマイシンオキシム: ビーグル犬 雌雄各3頭 スピノサド 60mgと[14C]ミルベマイシンオキシムを単回経口投与
* 投与21日目までに採取した試料の放射活性量を測定



ミルベマイシンオキシム配合による干渉作用は見られず、パノラミス錠の有効率は、スピノサド単剤と同等であることが確認されました。



■ ノミに対する有効性(米国)

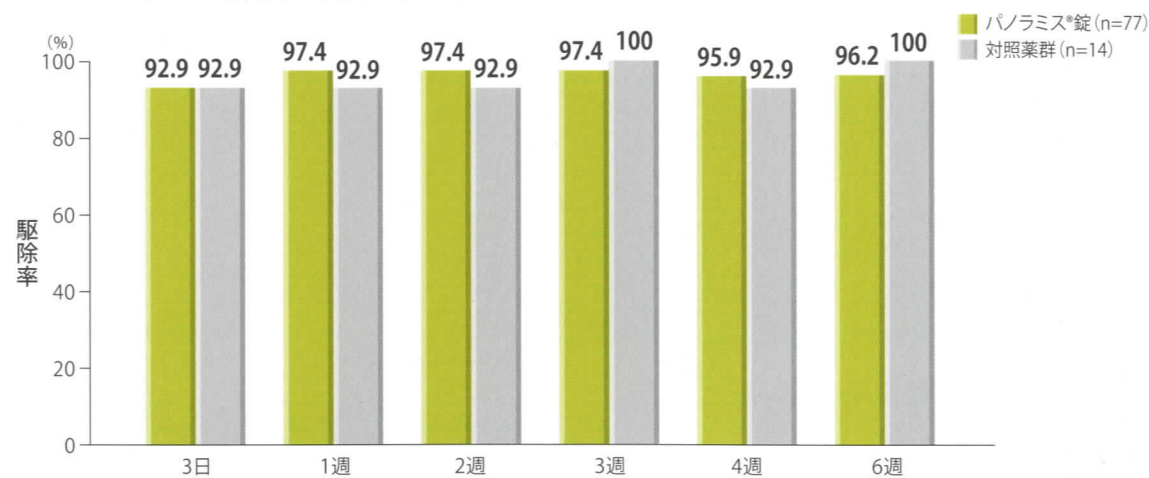


対象: 純血種および交雑種の犬、各群雌雄各5頭(14~148ヵ月齢、3.1~54.5kg)
 方法: プラセボまたはスピノサド・ミルベマイシンオキシム配合剤(スピノサド30~45mg/kg、ミルベマイシンオキシム0.5~0.75mg/kg)、スピノサド(30~60mg/kg)を食餌と共に経口投与し、投与-1、5、12、19、28、35日目に未吸血ノミ成虫約100匹を寄生させ、48時間後にノミ寄生数を確認した。
 有効率(%)=(プラセボ群における幾何平均値-試験薬投与群における幾何平均値/プラセボ群における幾何平均値)×100

パノラミス錠投与後3日で90%以上のノミ駆除効果が得られ、その効果は1ヵ月以上持続しました。



■ ノミに対する有効性(国内臨床試験)

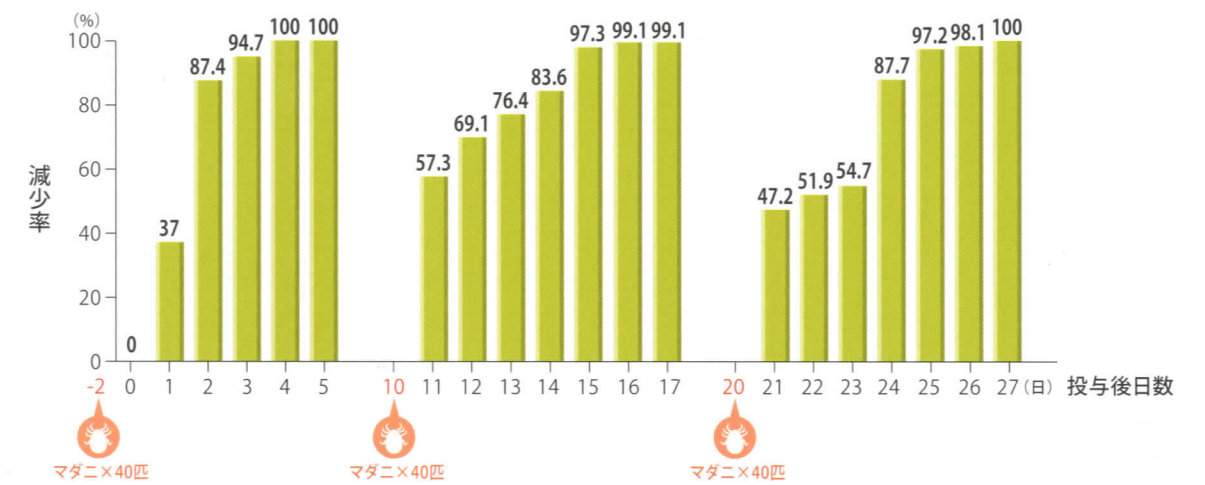


対象: ノミが自然寄生した犬91頭(被験薬群77頭、対照薬群14頭)
 方法: スピノサド・ミルベマイシン配合剤(スピノサドとして30~60mg/kg、ミルベマイシンオキシムとして0.5~1.0mg/kg)を少量の食餌と共に単回投与、または対照薬を単回皮膚滴下し、投与開始時、投与後3~4日、1、2、3、4、6週にノミの寄生数、臨床症状の観察を実施した。
 駆除率(%)=(ノミの寄生数が0となった症例数/評価症例数)×100

パノラミス錠投与後2日目に寄生マダニ数は著しく減少し、2回目、3回目寄生ともに陰性対照群と比べ有意なマダニ減少率が得られました。



■ マダニに対する有効性(国内)

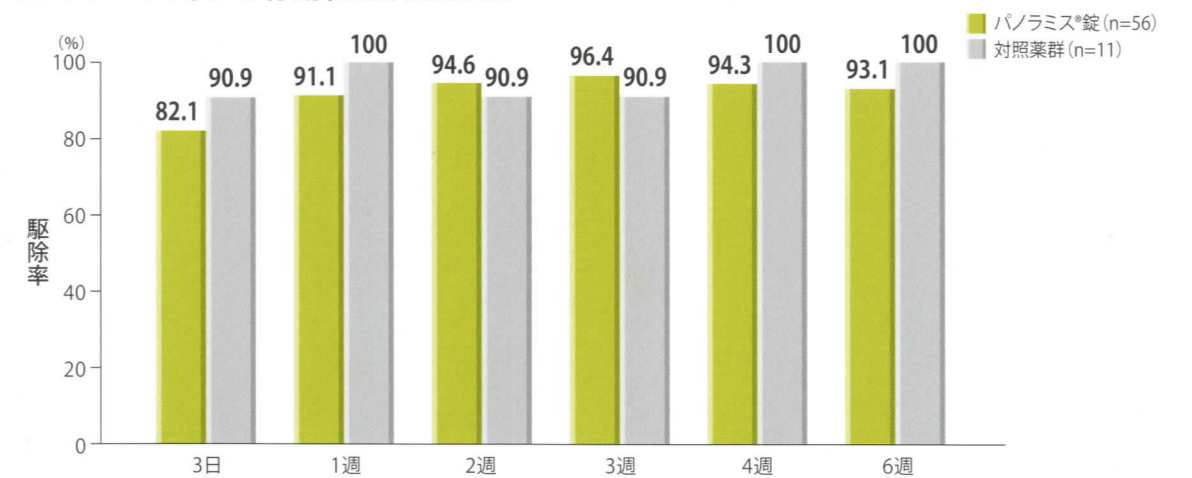


対象: ビーグル犬、各群6頭(13~20ヵ月齢、7.9~12.9kg)
 方法: 陰性対照(無投薬)またはスピノサド・ミルベマイシンオキシム配合剤(スピノサド30mg/kg、ミルベマイシンオキシム0.5mg/kg)を食餌と共に経口投与し、投与-2、10、20日目にフタトゲチマダニの未吸血若ダニ40匹を寄生させ、マダニの寄生後それぞれ7日まで毎日(1回目寄生では寄生後3~7日)、犬の体表に寄生しているマダニ数を確認した。
 マダニ減少率(%)=(a-b)/a×100 a:被験薬投与前の平均寄生マダニ数 b:被験薬投与後の各時点の寄生マダニ数
 2回目または3回目の人工寄生後のマダニ減少率(%)=(a-b)/a×100 a:2回目または3回目寄生翌日の無薬投与群の平均寄生マダニ数 b:2回目または3回目寄生翌日以降の試験薬群の各時点の寄生マダニ数

パノラミス錠投与後1週までに90%以上のマダニ駆除率が得られ、その効果は1ヵ月以上持続しました。



■ マダニに対する有効性(国内臨床試験)



対象: マダニが自然寄生した犬67頭(被験薬群56頭、対照薬群11頭)
 方法: スピノサド・ミルベマイシン配合剤(スピノサドとして30~60mg/kg、ミルベマイシンオキシムとして0.5~1.0mg/kg)を少量の食餌と共に単回投与、または対照薬を単回皮膚滴下し、投与開始時、投与後3~4日、1、2、3、4、6週にノミの寄生数、臨床症状の観察を実施した。
 *スピノサド・ミルベマイシン配合剤投与群では4種のマダニの寄生が見られ(フタトゲチマダニの寄生症例が最も高頻度で、次いでキチマダニ、ヤマトマダニ、ツリガネチマダニ)、対照薬群ではフタトゲチマダニのみの寄生であった。
 駆除率(%)=(マダニの寄生数が0となった症例数/評価症例数)×100

開発の経緯/特長
作用機序/薬物動態
有効性(ノミ/マダニ)
有効性(犬糸状虫/消化管内寄生虫)
安全性/製品情報

有効性

(消化管内寄生虫/犬糸状虫)



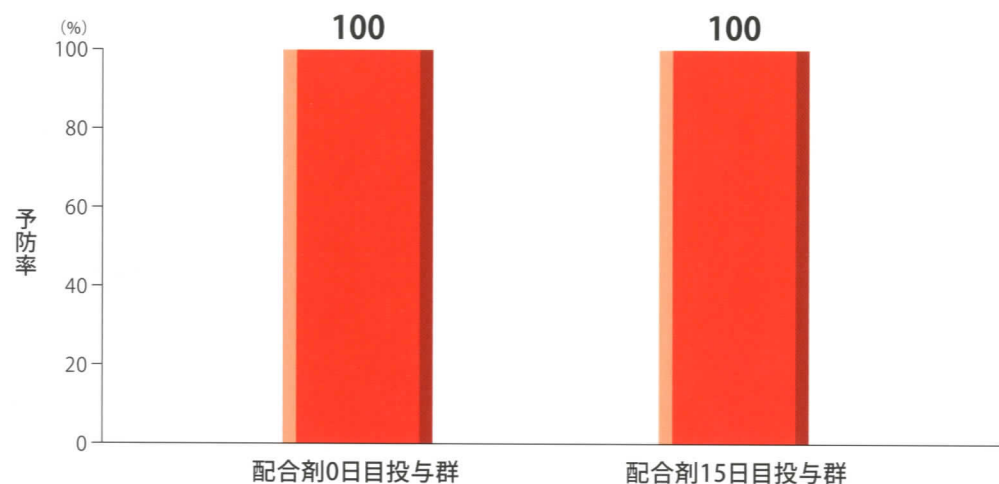
パノラミス錠
(スピノサド+ミルベマイシンオキシム)



パノラミス®錠投与群における犬糸状虫感染予防効果は100%でした。



■ 犬糸状虫に対する有効性(米国)

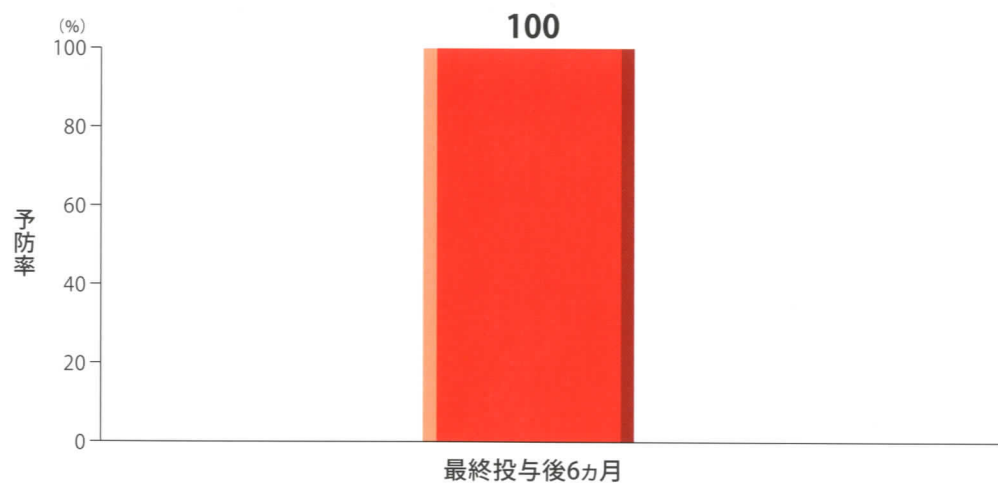


供試動物: ビーグル犬、各群雌雄各5頭(約4ヵ月齢)
 方法: プラセボまたはスピノサド・ミルベマイシンオキシム配合剤(スピノサド30~45mg/kg、ミルベマイシンオキシム0.5-0.75mg/kg)を食餌と共に経口投与した。試験30日目に犬糸状虫の第三期子虫(感染子虫)を50±5隻ずつ単回寄生させ、試験0日目または15日目に被験薬を投与し、試験120日目に剖検を行い犬糸状虫成虫を計測した。

パノラミス®錠を1ヵ月間隔で投与することにより、すべての症例で犬糸状虫寄生陰性100%の予防効果が得られました。



■ 犬糸状虫に対する有効性(国内臨床試験)

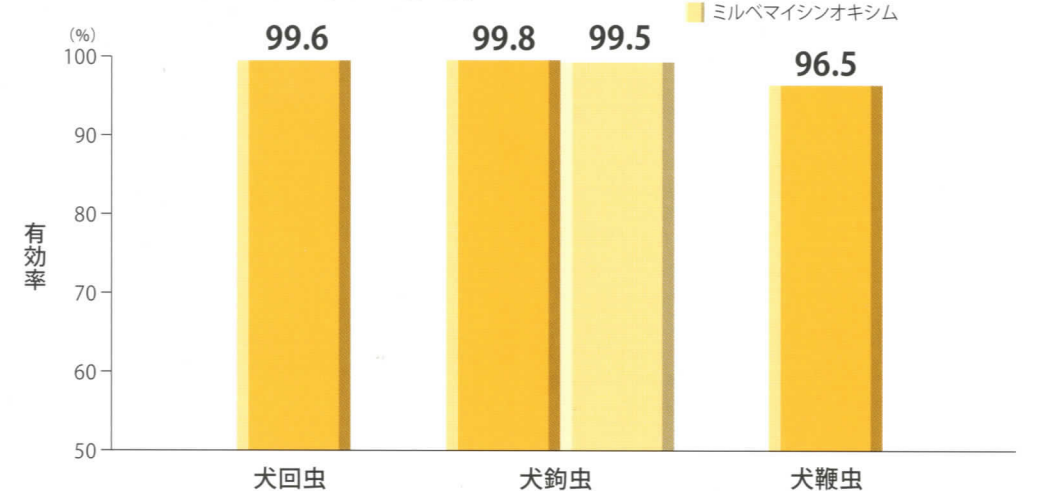


対象: 前年に犬糸状虫感染予防が行われている犬または犬糸状虫感染期終了以降に生まれた犬230頭
 方法: スピノサド・ミルベマイシン配合剤(スピノサドとして30~60mg/kg、ミルベマイシンオキシムとして0.5~1.0mg/kg)を蚊の発生時期から1ヵ月ごとにその年の12月まで投与し、投与開始時、投与開始4ヵ月後、および最終投与後6ヵ月にマイクロフィラリアおよび犬糸状虫抗原検査を実施した。
 有効率(%)=(マイクロフィラリア検査および抗原検査で陰性の症例数/評価症例数)×100

パノラミス®錠は、犬回虫・犬鉤虫・犬鞭虫に対して高い有効性を示しました。また、スピノサド配合による干渉作用は見られませんでした。(犬鉤虫)

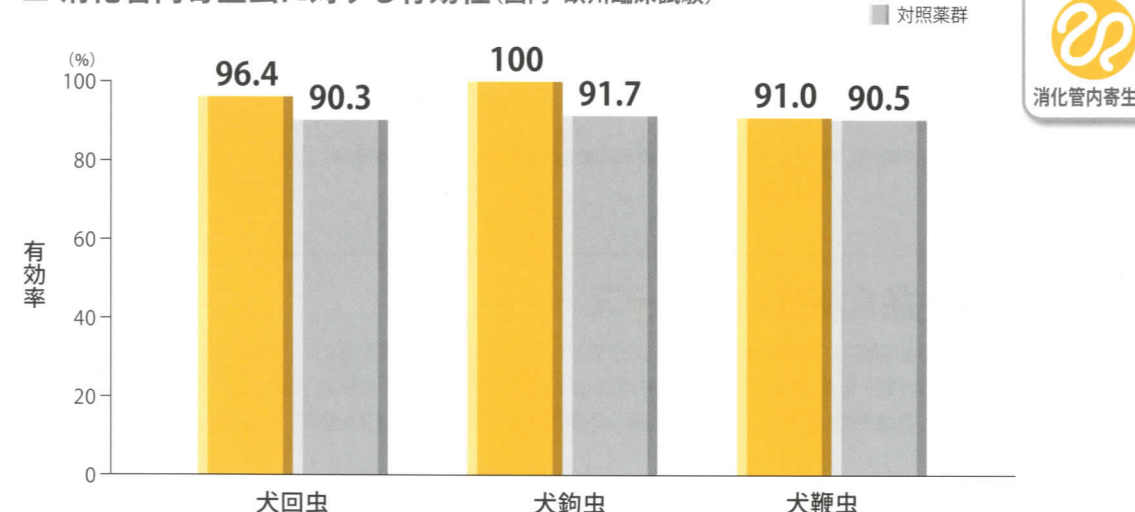


■ 消化管内寄生虫に対する有効性(米国)



対象: ビーグル犬、各群雌雄各5頭
 方法: プラセボまたはスピノサド・ミルベマイシンオキシム配合剤(スピノサド30~45mg/kg、ミルベマイシンオキシム0.5-0.75mg/kg)、ミルベマイシンオキシム(0.5~1mg/kg)を食餌と共に経口投与した。
 [犬回虫] 対象: 2~12ヵ月齢 方法: 投与51日目に犬回虫孵化卵を150個ずつ単回接種し、試験7日目に剖検を行い犬回虫成虫数を計測した。
 [犬鉤虫] 対象: 9~11ヵ月齢 方法: 投与27日目に犬鉤虫第三期感染子虫を約100隻ずつ単回接種し、試験7日目または8日目に剖検を行い犬鉤虫成虫数を計測した。
 [犬鞭虫] 対象: 3~5ヵ月齢 方法: 投与86日目に犬鞭虫孵化卵を700個ずつ単回接種し、試験7日目に剖検を行い犬鞭虫成虫数を計測した。
 有効率(%)=(プラセボ群における幾何平均値-試験薬投与群における幾何平均値/プラセボ群における幾何平均値)×100

■ 消化管内寄生虫に対する有効性(国内・欧州臨床試験)



対象: 犬回虫、犬鉤虫、犬鞭虫のいずれかの単独または混合寄生が確認された犬(被験薬群: 犬回虫83頭、犬鉤虫44頭、犬鞭虫67頭、対照薬群: 犬回虫31頭、犬鉤虫24頭、犬鞭虫42頭)
 方法: スピノサド・ミルベマイシン配合剤(スピノサドとして30~60mg/kg、ミルベマイシンオキシムとして0.5~1.0mg/kg)を少量の食餌と共に単回投与、または対照薬を単回経口投与し、投与後7~10日に糞便中の虫卵の有無および排泄数を確認した。
 有効率(%)=(虫卵が全く検出されなかった症例数/評価症例数)×100
 *評価頭数は国内・欧州臨床試験の合計



各種安全性試験において、パノラミス®錠の安全性が確認されています。

■ 安全性試験

	8週齢以上の子犬に対する 高用量安全性	繁殖犬における安全性	アベルメクチン感受性 コリー犬における安全性	犬糸状虫の成虫感染犬 における安全性
対象	ビーグル犬雌雄各16頭 (8週齢、体重2.1kg以上)	妊娠が確認された ビーグル雌30頭	アベルメクチン感受性コリー 犬雌雄各12頭(1~8.4歳齢、 体重15.2kg以上)	犬糸状虫陽性ビーグル犬雌 雄各16頭(3歳齢、体重5.1~ 11.4kg)
方法	プラセボ、1倍量・3倍量・5倍 量を28日間隔で6サイクル 経口投与した	プラセボ、1倍量、3倍量(1倍量を 7日おきに3回投与)を交配前、 妊娠期間中および授乳期6週 間に28日間隔で経口投与した	プラセボ、1倍量、3倍量、5倍 量を28日間隔で3サイクル 投与した	プラセボ、1倍量、3倍量、5倍 量を28日間隔で3サイクル 投与した
結果	被験薬に関連した重大な健康 への影響と毒性はみられ なかった	繁殖パラメータ(受胎率、妊娠 期間、出生率、出生時生存仔数、 離乳時生存率など)への影響は みられなかった	アベルメクチン中毒の指標 となる症状は試験期間中み られなかった	マイクロフィラリア試験および剖検に より全頭にマイクロフィラリアおよび 成虫が確認された。また、被験薬群 で見られた有害事象は嘔吐のみで、 プラセボ群1例で犬糸状虫顕性感 染による合併症で死亡がみられた

1倍量: 常用量の上半分の用量(スピノサド45~60mg/kg, ミルベマイシンオキシム0.75~1.0mg/kg)
3倍量・5倍量: 1倍量を3日間または5日間連続投与

■ 国内臨床試験における安全性

有害事象*	症例数(n=350)	発生率(%)**
嘔吐	13	0.7
下痢・軟便	2	0.1
その他	3	0.1

* 因果関係が否定できなかった症例・重複あり
** 述べ投与回数 回に対する発生率

対象: 国内臨床試験において35施設に来院し、スピノサド・ミルベマイシンオキシム配合剤を投与された犬350頭(S1犬種)
期間: 2011年5月~2012年10月



● 併用に注意の必要なケース

毛包虫症などの治療を目的に、高用量のイベルメクチン(犬用以外の製剤を含む)を投与した犬に、スピノサド製剤(品名:コンフォティス®錠)を併用した事例で、イベルメクチンの毒性と考えられる症状を発生したとの報告があります。これらのケースでは対症療法により、通常24~72時間以内に回復しています。高用量イベルメクチンとの併用は避けてください。

● 1時間以内に嘔吐した場合の再投与に関して

本剤の有効成分スピノサドには嘔吐の副作用が知られています。投与の1時間以内に嘔吐した場合は、本剤の効果が担保できない可能性があるため、再投与することをお勧めします。

● 製品情報

(パノラミス錠S / パノラミス錠M / パノラミス錠L / パノラミス錠LL / パノラミス錠XL)

少量のフードと一緒に与えてください。
最大の効果を得るため、少量のフードを与えてから投与するか、少量のフードにまぜて与えてください。

【組成】

一錠中にそれぞれ次の成分を含有。

品名	スピノサド	ミルベマイシンオキシム
パノラミス錠S	140mg	2.3mg
パノラミス錠M	270mg	4.5mg
パノラミス錠L	560mg	9.3mg
パノラミス錠LL	810mg	13.5mg
パノラミス錠XL	1620mg	27.0mg

【効能及び効果】

犬: 犬糸状虫症の予防、ノミ及びマダニの駆除、犬回虫・犬鉤虫及び犬鞭虫の駆除

【用法及び用量】

体重1kg あたりスピノサド30mg 及びミルベマイシンオキシム0.5mg を基準量とし、本剤を1錠経口投与(投与前後に少量の食餌を与えること)又は食餌に混ぜて投与する。なお、犬糸状虫症の予防には、毎月1回、1ヵ月間隔で蚊の発生から発生終息1ヵ月後までの間、投与する。体重別には次の投与量による。また、体重54.0kg以上の犬には、体重1kg あたりスピノサド30mg 及びミルベマイシンオキシム0.5mg を基準量とし、錠剤を組み合わせて投与すること。

犬の体重範囲(kg)	用量
2.3kg 以上4.5kg 未満	パノラミス錠S
4.5kg 以上9.0kg 未満	パノラミス錠M
9.0kg 以上18.0kg 未満	パノラミス錠L
18.0kg 以上27.0kg 未満	パノラミス錠LL
27.0kg 以上54.0kg 未満	パノラミス錠XL
54.0kg 以上	適切な錠剤を組み合わせて投与

【使用上の注意】

【一般的注意】

- 本剤は要指示医薬品であるので獣医師等の処方せん・指示により使用すること。
- 本剤は効能・効果において定められた目的にのみ使用すること。
- 本剤は、定められた用法・用量を厳守すること。
- 本剤は、蚊、ノミ又はマダニが発生する時期に投与すること。若しくは犬回虫・犬鉤虫又は犬鞭虫に感染した犬に投与すること。

【使用者に対する注意】

- 誤って薬剤を飲み込んだ場合は、直ちに医師の診察を受けること。

【犬に対する注意】

1 制限事項

- 本剤の投与前には健康状態について確認し、使用の可否を決めること。
- 本剤は14週齢未満の子犬又は体重2.3kg 未満の犬には投与しないこと。
- 本剤の投与前に必ず血液検査を行い、マイクロフィラリアがないことを確認した後、投薬を行うこと。
- 犬糸状虫感染犬に本剤を投与する場合は、成虫及びマイクロフィラリアを駆除するなど適切な処置を行い、投薬を行うこと。
- ミルベマイシンオキシムの試験において、コリー犬及びその系統の犬種は他の犬種に比べ、安全域が狭いことが示されていることから、これらの犬種に対しては、用法・用量を厳密に守ること。

2 副作用

- 副作用が認められた場合には、速やかに獣医師の診察を受けること。
- 本剤の投与により嘔吐、下痢、食欲不振又は元気消失がみられることがある。
- 本剤に含まれるフレーバー成分又はその他の成分により、個体の体質によっては、まれに一過性の過敏反応(蕁麻疹、顔面の腫脹等)が起こることがある。
- ミルベマイシンオキシムを犬糸状虫感染犬に投与した場合、急性犬糸状虫症(大静脈症候群)、歩様異常、元気消失、嘔吐、呼吸速迫又は食欲不振の症状が現れることがある。

3 適用上の注意

- 本剤は食餌と共に投与することで最大の効果が得られるため、投与の前後に少量の食餌を与えること。
- 本剤の有効成分スピノサドには嘔吐の副作用が知られている。投与の1時間以内に嘔吐した場合は、本剤の効果が担保できない可能性があるため、獣医師の判断により再投与又は他剤の使用を検討すること。
- 複数飼育の場合は、再感染を最小限にするため、全頭に投与することが望ましい。
- 本剤を反復投与する場合は月1回を超えないようにすること。
- 本剤の繁殖用雄犬に対する安全性評価は実施されていない。
- 繁殖用の雌犬には慎重に投与すること。
- てんかんの既往症のある犬には慎重に投与すること。素因及び他の因子も含めて因果関係は不明であるが、スピノサド製剤(品名:コンフォティス錠)投薬後にてんかん様発作が認められた報告がある。
- 毛包虫症などの治療を目的に、高用量のイベルメクチン(犬用以外の製剤を含む)を投与した犬に、スピノサド製剤(品名:コンフォティス錠)を併用した事例で、重度の副作用の報告がある。
- 本剤のマダニに対する駆除効果は1ヵ月間持続しないことがあるため、投与後1ヵ月以内にマダニの再寄生が認められた場合は、獣医師の判断により他剤の使用を検討すること。

【取扱い上の注意】

- 使用済みの容器は、地方公共団体条例等に準じて処分すること。
- 本剤を廃棄する際は、環境や水系を汚染しないように注意し、地方公共団体条例等に準じて処分すること。

【保管上の注意】

- 小児の手の届かないところに保管すること。
- 本剤の保管は直射日光、高温及び多湿を避けて保管すること。
- 誤用を避け、品質を保持するため、他の容器に入れかえないこと。

【貯蔵方法】

室温保存、気密容器

【包装】

錠剤サイズ パノラミス錠S、M、L、LL、XL、それぞれ6錠入りブリスターシート包装